

# わんぱく学園ニュース

平成19年 9～10月号 No132

路の辺などどこにでも群がる。竹に似た葉をつけ上に伸びるが、茎は地にはう。仲秋、緑色の鈴状(ねじょう)の苞葉(ほうり)の外に二弁の鮮やかな藍色の花…そう…露草が咲く頃……。月影に咲くというので月草とも——。「つゆ草や、踏まれふまれて、花咲かす」～垣

今回、私たちの活動をジャーナリストとしてご支援頂いている東京在住の青柳雄介氏より寄稿していただきました。青柳氏は、現在サンデー毎日、女性セブンなどの多くの媒体で腕をふるっていらっしゃる注目の方です。ひとつ一つの事件を冷静に且つ熱くとらえる人間的な視点をお持ちのように思います。

## 「原点の大切さを教えてくれた出会い」

ジャーナリスト 青柳 雄介

雑誌の記者として、これまでさまざまな「場面」に遭遇してきた。大きな事件や事故だったり、スポーツの拮抗(きっこう)した戦いの場、また、優れた人物や芸術作品に思いがけず出会うこともあった。

そうした中でいつも感じるのは、「空気」と「色」だった。

凄惨(せいさん)な事件や事故現場に出かけると、悲嘆に暮れ怒りをあらわにした心情が、見えぬ空気を媒介にしてひしひしと胸に伝わってくる人が多い。力の限りを尽くしたアスリートのぶつかりあいでは、明らかに空気が熱を帯び、透明であるはずの空気が燃えるように見えることがある。ひとたび試合が終われば、勝者と敗者のあいだには大きく乖離(かいり)した空気が流れるものだ。

そうした取材に際して、いつも客観的な視線で真実を見つめようと試みるのだが、どんなに抗(あが)って見たところで、それが不可能な場面になるときとしてぶつかることがある。

どうしても、心を強く動かされてしまうことがあるのだ。

最近、ようやく気づいたのだが、そんなケースに共通しているのは、

人々が与えられた運命に対して必死に生きようとしている姿がある、ということだった。

障害を持った人たちは、少しだけ苦手なことがある。ただそれだけのことなのである。それはある面、苦しいことなのかもしれない。しかし、翻(ひらが)って考えてみれば、私たちはみな、苦手なことを必ず抱えながら人生の航路を航海しているようなものである。

ともすると、お金がすべてというような世の中の風潮が席卷(せきけん)しているが、実は本当の幸せはもっと身近なところにあると、最近になってみんな気づいてきたのではないか。アスファルトの地面の隙間から顔をのぞかせる、名もないような花。ほとんど人の目に触れない小さな花でも、そこにはそれなりの美しさが存在する。

大きくなくてもいい。花と同じで、与えられた「生」を自分なりに一所懸命に生き、自分なりの香りを漂わせる。そんな姿に、もっともっと出会いたいものだ。

縁あって、わんぱく学園の活動の一端を知る機会があった。その「空気」と「色」にまたぜひ触れてみたいと考えている。

さて、8月に楽しんだ『学園』の遊びの一部を紹介致します。

今年20年目を迎えたわんぱく学園。その節目として、ヤマタノオロチ伝説がうたわれる斐伊川で手作りの“いかだ遊び”を楽しみました。25名の親子の笑い声が広い斐伊川いっぱいにはじけました。

まず青竹を組み合わせ、その下へジャンボのタイヤチューブをくくりつけ、縦2メートル、横1メートルのいかだ二枚を一時間かけて作りました。そして、灘分町地内下流の斐伊川に浮かべ、2～3人ずつで乗り、竹切れの棒を使って漕いだり大人に綱で引っ張ってもらい斐伊川探検遊びにチャレンジしました。斐伊川の水辺から見上げる深緑色した高い旅伏山、遠くに見える薄紫色の中国山脈の山々、両端の濃淡の緑色した斐伊川土手、そして真っ青な夏空—— 普段なかなか見ることが出来ない水辺の中から眺めた豊かな自然の美しさを再発見したひとときでもありました。





### いかだ遊び楽しかったな～！

「いかだ」と聞いて私がイメージしたものは「トムソーヤの大冒険」！。我が子(5歳)は、「いかだ」と聞いて???。そりゃ～そうですよねえ。とりあえず斐伊川に行って遊ぶということは分かったみたいなんですけど…。

26日、車中の会話は、「どんな船だ～か?」「魚がおるかな?」「蟹もいるかも…」などと子どもの頭の中が見えるかのように、想像をふくらませた会話でいっぱいでした。

「さあ、いかだで遊べるよ!」の呼びかけに「まだいい」と初めてのことに慎重な我が子。しかし、お兄ちゃん達が遊ぶ姿をみて、なんだかやってみたくなりました。いっちょまえに短い竹をオールに見立て、大きな笑い声を張り上げてこいでいる姿は、見ている私たちまでも楽しませてくれました。

初めは親との関わりを楽しんでいたけれど、次第に近くにいた友たちと一緒に遊ぶ姿が見られ、うれしく思いました。初めて会う人がほとんどの中、「いかだ」という1つの遊具を通して、自然に人と関われる、楽しさを共有できるというのは素晴らしいですね。また「いかだ」だけでなく、自分たちで遊びを見つけ出し、自分の世界を練り広げて遊ぶこと。心も身体もしっかり遊びきった時間だったように思います。午後はみんなで大の字になってお昼寝。とても充実した休日を過ごすことができました。

和世さんには、よく「わんぱく学園」に誘っていただきます。そのお陰で、私たちも様々な経験や人との関わりをもたせてもらい、とても感謝しています。初めてでも緊張することなく和やかな雰囲気「わんぱく学園」。まだ体験していない人に、ぜひ味わって頂きたい学園です。



(凌の母、伊藤美鈴)

実は、伊藤さんは、出雲市立国富小学校の特別支援学級の教諭をなさっています。今回自分のお子さんを連れて参加して頂きました。

こうして、特別支援に携わっておられる先生方にも「わんぱく学園」を創設した主旨をご理解頂き、導いて頂ければ大変嬉しく思います。

### ～みんな 芸術家!!～ (お知らせ)

この度、わんぱく学園主催の陶芸教室をすることになりました。今回、県より「県民との協働による島根づくり事業」のご支援をいただき、又、県立青少年の家「サンレイク」のご理解ご協力を得、下記の通り計画いたしました。誰でも気軽に遊びに来て下さいね。

#### 記

- ・実施月 11月、12月、2月、3月の4回 (期日、日程など詳細は10月末発行、わんぱくニュースNo132にて)
- ・場所 県立青少年の家「サンレイク」屋外創作棟
- ・講師 齋藤 安食ひろ氏 齋 槇野良樹(両氏共 当学園スタッフ)
- ・対象 だれでも どなたでも ※お子さんの参加費は無料

◆9月・10月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

9月 2日	福祉フェスタ参加《場所:文化福祉館周辺駐車場》 齋 安食ひろ 午前10時～午後3時 ◎似顔絵描いてもらおう?
9日	おやすみにします
16日	十六島で魚つりして遊ぼう! (齋 福田絵・土江継) ・水筒持参・釣竿がある人は持って来てね・餌は学園で準備 ※魚つりしながら、ごみ拾いもしようか!?
23日	地区民体育大会の為、おやすみです 地域の友だちや大人の人とも仲良しになろうね!
30日	生活バスに乗って平田めぐり (齋 山口野・土江継) ・バス代(小学生200円大人400円)準備・おやつは学園で準備
10月 7日	宍道湖で遊ぼう!!※ごみ拾いの名人集合(齋 福田絵・土江和) ・水筒持参・釣竿がある人は持って来てね・餌は学園で準備
14日	おやすみにします
21日	お月見(-脱け)とお抹茶会しよう?(齋 おちと 齋 土江継) ・おだんご作った後 お抹茶飲もう ・料費200円程度
28日	鰯淵寺へ紅葉狩り ※生活バス&車?(齋 原鞆 山口野) ・おにぎり・水筒 ※おやつ学園で準備

★集合時間 9時30分 ★集合場所 光人塾前駐車場

《学園問い合わせ先 土江《齋 09077745913》 [文責 土江 和世]